

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

令和 2 年 1 月 30 日公表

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○	言語療育を主としており、療育に必要な設置できるスペースを確保しています。	今後も同様に、適切なスペースの確保と環境整備に努めて参ります。
	2	職員の配置数は適切である	○	人数だけではなく、専門性についてもバランス良く配置し、情緒面や学習面等、多方面から療育の質の向上を図っています。	今後も同様に、適切な人員を確保・配置して参ります。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○	生活空間は、安心かつ解りやすい環境を整えています。	今後も同様に利用児童の個々の特性に応じた最善の環境作りを目指して参ります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○	清潔に保たれています。療育終了後には都度、室内消毒、換気、部屋の清掃と除菌を行っています。	今後も同様に心地よさと清潔な空間、活動に合わせた空間作りの維持に努めて参ります。
業務改善	5	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○	毎朝ミーティングを行ない、PDCA サイクルに基づき、課題分析を行い、指導員全員で話し合いをする機会を確保しております。	今後も同様に前日の反省、本日の療育の確認を行い、職員全員で認識の統一を図っていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○	定期的にアンケートを調査を行い、ご意向を把握し改善に繋げています。	アンケートを実施し、相談があった場合は都度職員へ周知し、業務が遂行出来るよう努めています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○	自己評価の結果は、COMPASS の公式 Web サイトで公開しています。	今後も毎年 Web 上で自己評価の公開を行なって参ります。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	現時点では、第三者からの外部評価は行えておりません。	第三者による外部評価についての取り組みは今後の検討課題と致します。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○	月 1 回社内研修が行われ、研修に参加した職員から全職員へ事業所内研修を定期的に行っています。	今後も研修による職員の資質の向上を図って参ります。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	アセスメントを適切に行い、児童の特性や状況、保護者様のニーズの把握に努め、支援計画に反映させて作成しています。	今後も継続して適切に行って参ります。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○	標準化されたアセスメントツールを使用し、モニタリング時には事業所に統一されたチェックシートにて児童の状況を把握し、また保護者様のご意向の確認も行っております。	今後も継続して適切に行って参ります。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○	保護者様との密なやり取りを通して、課題整理、課題に向けてガイドラインの各項目を盛り込み、児童の支援に必要で具体的な支援計画を作成しています。	今後も継続して必要項目を選択し、適切で具体的な支援内容になるように努めて参ります。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○	児童発達支援計画に沿った支援が行われるよう、職員間で常に共通認識を図り、支援を行っています。	今後も支援計画に沿った支援が行われるように努めて参ります。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	支援計画をもとに保育士、教師別に得意分野を元に会議を行いチームでプログラムを立案しています。	今後も計画に沿った支援が行われるようチームで立案を行なって参ります。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	プログラムが偏ることのないよう、工夫しています。	今後も同様に固定化しないよう努め、内容が詳しく伝わるよう配慮して参ります。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○	児童の発達段階に合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせる支援計画を作成しております。	今後も同様にバランスの良い児童発達支援計画の作成を行って参ります。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	毎朝必ず打ち合わせを実施しています。共通認識をもって支援にあたるよう、情報の共有は丁寧に行っています。	今後も欠かさず打ち合わせを行い、情報共有と認識の一致に努めます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	欠かさずしっかりと一人ひとりの振り返りを行い、療育状況について児発管に必ず報告を行い、重要事項については、全員で周知するようにしています。	今後も同様に振り返りと共有を行っていきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	日々、経過記録を書き、児童の変化は必ず共有し、支援の検証・改善に役立てています。	今後も同様に記録を行い、検証・改善に繋げていきます。
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	定期的（6 ヶ月以内）にモニタリングを行い、保護者様様のご要望と児童の現状把握を行い、それを元に個別支援会議を設け、支援計画の見直しに繋がっています。	今後も同様に、モニタリングと計画の見直しを行って参ります。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児発管だけでなく、時には療育担当者も参画し、情報共有に努めています。	今後も同様に児発管と担当者がチームで参画致します。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	地域とのつながりを大切にしながら、関係機関と連携しています。	今後も更に地域の関係機関との関わりを大切にしながら連携した支援ができるよう努めて参ります。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	現時点では医療的ケアが必要な児童の利用はありません。	今後、対象児童の受け入れを行うこととなった場合には、関係機関と綿密な打ち合わせと調整の上、受け入れに向けて態勢を整えられるよう、検討して参ります。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	現時点では医療的ケアが必要な児童の利用はありません。	今後、対象児童の受け入れを行うこととなった場合には、関係機関と綿密な打ち合わせと調整の上、受け入れに向けて態勢を整えられるよう、検討して参ります。
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚園）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	必要に応じ幼稚園、保育園への電話連絡や訪問を行い、相互理解に努めています。幼稚園・保育園の関係機関の担任の先生とは、送迎時等に交流連携が取れており、相互理解に努めております。	今後も関係機関と連携して支援内容等の情報共有と、相互理解を図って参ります。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	児童の修学前に教育委員会、小学校と情報を共有し、児童が安心して過ごせるよう連携を図っております。	今後も関係機関と連携して情報共有と相互理解を図って参ります。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	職員研修として地域での研修や専門機関での講習を受け、持ち帰った職員が他の職員に周知しています。	今後も同様に連携し、研修に参加し、研鑽に努めます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	イベント時には外部の子どもたちを招待し、積極的に交流活動を行っております。	今後も保護者様のご意向を伺いながら地域の子ともと交流する機会を企画して参ります。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	事業所がある区域の公民館からの情報を得て、行事に参加しています。	今後も機会を捉え、参加して参ります。
保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡帳だけでなく、利用児童の送迎時等あらゆる機会を利用して、保護者様とコミュニケーションを図り、重要事項についての共通認識を持つように努めています。	今後も機会を捉え共通理解に努めます。気軽に相談出来るよう信頼関係を築いて参ります。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○	保護者様からのお悩みは傾聴し、相談に対応させて頂いています。個別に詳細なプログラムをご希望の保護者様には、助言の場を設ける等、対応させて頂いています。	今後も保護者様への支援に努めます。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時には読み合わせを行い、時間をかけて丁寧にご説明を行っています。	今後も同様に丁寧な説明に努めます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら児童発達説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	共有ガイドラインが示す支援内容と保護者様のご意向、児童の課題を考慮し、課題と方針のすり合わせを行っています。	今後も継続して、共有ガイドラインが示す支援内容と、保護者様のご意向、児童の課題のすり合わせを行い、支援計画について丁寧な説明を行い、同意を頂くように努めて参ります。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時や連絡帳の活用を行い、半年に一度の面談の際や、送迎時等の機会を利用して、保護者様のお悩みを聞き取り適宜助言と支援を行っていきます。	今後も同様に対応して参ります。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	様々な機会を利用して、保護者様同士の交流や意見交換の場を設けるよう努めていきます。	今後も同様に保護者様同士の連携を支援して参ります。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	保護者様からのご相談や苦情受付の窓口を児発管に一本化することで誤解や誤認識を防いでいます。児発管に受付した後は、全職員参加の会議にて事実確認等を行い、最善策を検討し、迅速かつ適切な対応を図っています。	今後も引き続き相談や申し入れについては迅速丁寧に対応して参ります。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	事業所独自に月に 1 回の、COMPASS 全体で季節ごとに会報の発行を行っています。また月に 1 回程度は公式 Web サイトのブログで活動や行事や児童の成長のご報告を行っています。	今後も継続して会報の発行、保護者様へのお知らせ、またサイトののご案内も行って参ります。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○	個人情報の取扱いは慎重に行い、書類は鍵付きのキャビネットに保管しています。	引き続き個人情報は慎重に取り扱い、保管にも配慮して参ります。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	ご対応の窓口を児発管に統一すること、保護者様からの相談に適切なご対応とご提案ができるように配慮しています。	今後も同様に、適切に丁寧な意思疎通を図って参ります。
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	イベント開催時に近隣の住民の方々や公民館へご案内を行っています。	保護者様のご意向をお聞きしながら、今後も地域住民参画の行事を検討して参ります。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	各種マニュアルを策定し室内に掲示しており、新規の保護者様だけでなく順次皆様に再度、当該マニュアル等の周知・説明を行っています。防災学習や訓練は様々な想定のもと、実施しています。	今後もマニュアルの周知と訓練を重ねて参ります。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	定期的に地震・火災を想定した訓練は避難場所までの誘導、紙芝居等を利用した学習と避難訓練を行っています。	今後も、定期的に避難訓練を継続し、避難訓練についてはお便り等を通じて保護者様にお伝えしていきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	アセスメントやモニタリングにて、保護者様から情報をご提供頂き、全職員で周知確認しています。	今後も継続して児童の状態の確認と対処を行なって参ります。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者様に情報提供を依頼し、頂いた情報は全職員で情報共有を行っています。	今後もアレルギーに関しては、同様に慎重な対応を行って参ります。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハットは必ず記録し、定期的に事例検討、対応についての話し合いを行っています。	今後も継続してヒヤリハット事例を記録し、事故防止への対応を重ねて参ります。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待防止に関しては、定期的にマニュアルに沿った職員研修を行っています。事業所内での研修のみならず、県等が主催する研修にも参加し、その内容を共有しています。	今後も継続し、虐待防止に努めて参ります。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかにについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	現在、身体拘束が必要な児童のご利用はありませんが、利用契約書に身体拘束の禁止を記載しており、生命又は身体を保護する為にやむを得ず身体拘束を行う場合は、予め文書により保護者様の同意を得るようにしています。	身体拘束の必要な可能性がある児童の利用が開始となった場合、保護者様や関係医療機関などと充分な話し合いを持ち、了解を得た上で体制を整え、支援計画にも記載するようにいたします。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。